

科目名	基礎看護Ⅰ (基本技術)				DP2 DP3 DP4 DP6		看護高等課程	
学年	1 年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	40 時間	担当教員	寺坂 和代	
科目 概要	基礎看護技術は、看護の基本となる概念を理解し、対象に適切な看護を提供するために倫理・科学的根拠に基づいた看護技術を提供する為の基盤となるものである。また、看護の専門的知識に基づいて、対象の安全・安楽な技術を実践できる能力を養う必要がある。共通基本技術である観察技術、記録・報告の看護実践のための基礎的な技術を習得する内容とした。 また、准看護師は看護師から個々の対象者の目標 や具体的な看護の内容等を記載した「看護計画」に基づいた指示によって療養上の世話や対象者の状態を観察したり、看護を安全に提供したりする役割を行うため、看護過程の基本的知識を理解する内容とした。							
到達 目標	1. 看護に必要な身体各部の計測方法を理解できる。 2. バイタルサイン（意識・体温・呼吸・脈拍・血圧）の測定方法を理解し、正確に実施することができる。 3. 看護記録および報告の意義、種類、方法を理解することができる。 4. 看護過程を展開するための基本的な知識と技術について理解できる。							
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員
1～20	看護技術とは		看護技術とはなにか、高い倫理性に立脚した看護技術、専門職として看護技術を学ぶ			講義 演習	寺坂	
	看護技術の基本		観察、身体各部の計測					
	バイタルサイン		意識、呼吸、脈拍、血圧、体温測定の方法と観察 フィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）					
	記録と報告		看護記録とは、意義、目的、種類、基本、管理、カルテ開示、電子カルテ 報告とは、意義、目的、種類、方法					
	技術試験		バイタルサイン・観察・記録・報告技術			技術 試験	寺坂 他専任教員	
	看護過程		日常生活を援助する意義、日常生活行動と基本的欲求、日常生活行動と成長発達段階、ニーズの把握と日常生活の援助 看護過程とは、看護過程の各要素、看護過程の展開（ヘンダーソン理論の活用） 情報収集→アセスメント→診断→計画→実施→評価のプロセス（事例）			講義 演習	寺坂	
試験					試験	寺坂		
評価 基準	下記評価方法によって 100 点満点とし 6 割以上を合格とする。特に、技術試験は、臨地実習において受け持ち患者に提供する技術のため、技術試験配点の 6 割以上を合格とする。技術試験が 6 割に満たない場合は必ず再試験を行う。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。							
評価 方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。 また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。							
教科書	看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院 ケアに生かす検査値ガイド 疾患別看護過程の展開 必要時、資料等は配布する。							
履修上の 注意点								